

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版） | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都市下京区東塩小路町ホテル計画	階数	地上10階地下1階
建設地	京都市下京区東洞院通七条下る東小路町848番地	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地区	平均居住人員	290 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2017年7月7日
敷地面積	783 m <sup>2</sup>	作成者	佐藤工業株式会社
建築面積	545 m <sup>2</sup>	確認日	2017年7月7日
延床面積	5,307 m <sup>2</sup>	確認者	佐藤工業株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 83%  
③上記+②以外の 83%  
④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	特になし	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
防音かつ、外皮断熱性能向上、空調容量の確保など、音環境・温熱環境に配慮。屋光率を高めに設定し、光・視環境にも配慮。F☆☆☆☆建材を全面的に採用、喫煙場所は十分な流出対策を行う等、空気質環境にも配慮している。	壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。補修必要間隔の長い配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行い中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。視線を遮らない様な樹木の配置、メッシュフェンスの設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。太陽光発電システムを採用し、エネルギー面にも配慮している。	自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を83%とし、地球温暖化への配慮。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮。管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど、交通負荷の抑制に配慮。ゴミ量の推計、予約状況に合わせた仕入れの徹底など減量化を計画している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される